

1 学校教育目標

よりよく生きるために、自ら考え、行動する子どもを育てる

～子どもの「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高めるために～

○「自ら学ぶ力」とは、

- ・目標実現への見通しをもって、粘り強く取り組む力
- ・自己の学習活動を振り返り、自己の学びをよりよい方向に調整できる力

○「自ら律する力」とは

- ・自らの生活をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断ができる力

2 目指す子ども像

- ・進んで学習する子 … 研究委員会，学力向上チームを中心に
- ・思いやりのある子 … 人権教育委員会中心に
- ・仲間とつながる子 … 生徒指導委員会を中心に
- ・心も体も元気な子 … 体育部，給食部，保健部，安全部を中心に

3 目指す教職員像

使命感と情熱にあふれた教職員

- ・想像力豊かな教職員（子どもの気持ち，保護者の気持ち）
- ・学び続ける教職員（教育者としての自覚，高い専門性）
- ・子どもたちの手本（行動，言動）となる教職員
- ・「つながり」を意識して，共通理解のもと共通実践できる教職員
- ・人権意識を高め，一人ひとりの子どもをかけがえのない存在として尊重する教職員

4 目指す学校像

子どもを育てるための具体的な取組のある学校

～取組のないところに，成果はない～

～特別な日のわたしより，いつものわたし～

5 今年度の重点

◎授業で子どもを育てる ～授業こそ学校教育の柱～

- ◇すべての子どもに届く授業が，すべての子どもの学力を向上させる（実態把握，子ども理解）
- ◇わかる喜びと学ぶ楽しさが実感できる授業（授業の質を高める，授業の標準化）
- ◇「知る」から「わかる」授業に（学びのプロセスが大切，他教科とのつながり，活用する場面）
- ◇子どもの力で子どもを育てる（仲間とのつながり，考えの広がり深まり）
- ◇学級集団から学習集団へ（互いのよさを認め合う 温かい人間関係 みんなで学ぶよさ）

○すべての教育活動と「目指す子ども像」の関連を明らかにする

- ◇どんな力をつけたいのか（「ねらい」から、「つけたい力」という視点で考える）
- ◇四つの目指す子ども像のうちの、どれに迫るものなのか
- ◇「例年通り」ではなく、子どもの現状からスタート
- ◇プロセスと評価の明確化（目指す子どもの姿のイメージ、取組の見通しをもつ）
- ◇子ども自身が自分の学びを考え、振り返る（「必要な力」「ついた力」を意識する）

○子どもの自主性、主体性、積極性を引き出す

- ◇子どもの声を教育活動に反映させることで、子どもの参画意識を高める
- ◇子どもの思いを聴く機会を大切にする
- ◇「認めて」「褒めて」子どものやる気を引き出す
- ◇児童会活動の充実（創造的な活動へ、縦と横のつながり、学校をよりよくするために）
- ◇集団の一員としての役割を担い、責任を果たす（自己実現、関心の高まり、意欲向上）

○規範意識を高める

- ◇学習規律の徹底（すべての子どもが安心して学習に臨めるように）
- ◇ルールは「守らされているもの」ではなく、安心・安全に生活するために「必要なもの」
- ◇高学年が見本となることで、学校全体の意識が高まる

○子どもの手本となる大人に（言動・生き方）

- ◇「言葉遣い」「時間を守る」「約束を守る」など子どもの模範となるように
- ◇「教職員の姿は子どもの鏡」「教職員は、子どもの重要な教育環境である」
- ◇手本になることで、信頼を得る

○保護者の願いや思いを十分に聴く（傾聴）

- ◇自分の考えを伝える前に、保護者の願いや思いを十分に聴くことが大切
- ◇共に子育てをする者として、子育ての困り、育てたい姿を共有する

○保護者・地域との連携は、日々の情報発信から

- ◇持ち物や予定などの連絡事項だけでなく、
子どもの生き生き活動する姿、学校・学年・学級で
大切にしていることや思いなどを伝える